

メダルのカギはショートゲームの イマジネーションとテクニック

山中博史 JGA 専務理事インタビュー

8月5日に開幕するオリンピック、リオデジャネイロ大会でゴルフが112年ぶりに正式競技として復活する。日程は男子が11日から、女子は17日から、それぞれ個人戦を4日間72ホールストロークプレーで競う。昨年12月に舞台となるレセルバ・マラベンディゴルフクラブを視察したオリンピックゴルフ競技対策本部統括コーディネーター山中博史JGA専務理事がコースの特色や攻略ポイント、さらには2020年東京大会に向けた思いを語った。



現地視察し、開催コースの特徴・攻略ポイントや2020年東京大会の課題を語る山中博史専務理事。

— まず昨年の12月に現地を訪れた経緯をお聞かせください。

山中 はい。JOC（日本オリンピック委員会）と各NF（ナショナルフェデレーション=競技統括団体）の合同視察会の一員としてリオデジャネイロ（以下リオ）に行きました。いくつかのグループに分かれてそれぞれの競技会場の視察ツアーなどを行ったあと、各NFが独自調査を行う日が設けられていました。全体視察ツアーではクラブハウスの周囲くらいしか見るできませんでしたので、独自調査日にはコネクションを

駆使してコース内を視察する手はずを整え、グリーンキーパーの案内のもと、各ホールをじっくりとチェックすることができました。非常に有意義な独自調査ができたと思います。

— 実際にオリンピック開催コースを見た印象は？

山中 事前にフラットな地形につくられたコースだと聞いていました。ただ、実際にコースを見て驚いたのは全体的にはフラットでありながら、ティーインググラウンドにもフェアウェイにもグリーンにも非常に大きなアンジュレーションがあるということでした。

— ティーインググラウンドにもアンジュレーションがあるのですか。

山中 はい。日本やアメリカは一般的にティーインググラウンドがある場所はボックス状になっており、排水の関係で多少の傾斜はあっても基本的には平らです。しかし、レセルバ・マラベンディGCには特にボックス状のようなものではなく、アンジュレーションがある場所を刈り込んでそこにティーマーカーを設置する形です。つまり、ホールによってはつま先上がりや、つま先下がりというようなさまざまなライからティーショットを打たなければならないということです。昨年、全米オープンが開催されたチェンバーズベイでもティーインググラウンドとはいえないような場所にティーマーカーを置いていましたが、それと同じような形ですね。

— フェアウェイはいかがですか。

山中 走行中のカートが大きく揺れるくらいのアンジュレーションです。平らなライから打てる可能性は少ないでしょうね。幅は平均40～50ヤードと広く、ラフは全くありません。その代わりにフェアウェイを外すとウエストエリアという荒（砂）地が待ち構えています。ブッシュがあちこちにあるので、そこにつかまればロストボールやアンプレヤブルの可能性もあるでしょう。グリーンが多くは砲台のような形で周囲が外側に落ち込んでいるのが特徴です。グリーン周りにもラフがなく、芝を短く刈り込んでいますから、少しでも外れた場合は下まで転がり落ちてしまいます。

— 芝はどのような種類を使用していますか。

山中 グリーン以外はゾイシアという種類。日本でいうコーライ芝です。グリーンはシーショアパスタラムというバッシュダ系の芝です。これはハワイなど海に近い場所でよく使用されている芝。塩を含んだ風や土壌に強い種類です。

— つまりレセルバ・マラベンディGCは海に近いコースということでしょうか。

山中 ええ、大西洋に面したコースです。コース内からは直接見えませんが、南側はすぐに大西洋です。グリーンキーパーによると、オリンピックが開催される8月は旗竿がしなるくらいの強い風が大西洋から吹きつけてくるそうです。



— お話をうかがっているとスコットランドなどのリンクスに近いイメージが思い浮かびます。

山中 そうですね。ただ、芝は青々としていますし、池が何か所かありますから、少し趣は異なりますね。

— 新設のコースだと聞きましたが、設計者はどなたですか。

山中 ギル・ハンスという新進気鋭の米国人設計家です。日本でも東京ゴルフ倶楽部のリニューアルを手掛けています。コース自体は極端に難易度が高いわけではなく、一般のアマチュアゴルファーも楽しめるものだと思います。距離は男子で7200ヤード前後になると予想されますから、それほど長いわけではありません。風のない好天が続けば優勝スコアは20アンダー前後になるのではないのでしょうか。ただ、先ほど申し上げたように風が吹きものですから、強風を想定してつくったコースだと感じました。木がほとんどなく、吹きさらしですから風の影響をまともに受けるはず。そうなるとう簡単には攻略できないでしょう。

— すると、風に強いショットを打てるプレーヤーが有利？

山中 そうですね、リンクスの風に慣れている英国やアイルランドのプレーヤーが強いかもかもしれません。ただ私がスコアメイクのポイントだと考えるのはショートゲームです。強風の中、うねりのあるフェアウェイから打つことを強いられますから、グリーンを外す回数が増えると考えられます。しかもグリーンは周囲が落ちこんでいる形ですから、グリーンに落下しても転がり落ちる危険性が高いわけですね。グリーンを外すと刈り込まれた薄い芝の上から大きくうねったグリーンに向かって打ち上げのアプローチとなります。これは簡単ではありません。最初から転がっていくのか、ワンクッションを入れる攻め方がいいのか、ショートゲームのイマジネーションとテクニックを試されるコースだと思います。つまり、パワーよりもショートゲームのうまいステディーなプレーヤーがこの舞台には合うのではないかと考えています。

— フェアウェイがコーライ系の芝ということは日本人選手にとってプラス材料になるのではないのでしょうか。

山中 近年、コーライ芝は耐久性があり高温多湿に強く、管理しやすいなどの理由で世界的に評価が高まっています。アメリカでもフェアウェイにコーライ系の芝を採用するコースが増えているほどです。それでも慣れという点では日本人選手のほうが上ではないのでしょうか。コーライ芝はボールが浮き気味になりますから一見打ちやすそうなのですが、海外の選手が日本に来た時に「コーライ芝は引っ掛かりそうに感じて、調整するのが難しい」という言葉をよく口にしています。

— ブラジルは暑いというイメージがありますが、オリンピック期間中の気候はいかがですか。

山中 南半球ですから8月は冬にあたります。リオの8月の平均気温は25度程度ですから、気温的には快適だと思いますよ。むしろ朝の早い時間帯は気温が下がってセーターが必要なほどだそうです。

— 選手村からのアクセスはいかがでしょうか。

山中 渋滞がなければ車で10～15分です。ただ選手村は1部屋を4人前後で利用する形になりますので、ゴルフの場合、選手やキャディーは別にホテルを手配することになるでしょう。選手村で寝泊まりするのは私のようにチームマネージャーとしてJGAから同行するスタッフですね。というのも大会のすべての情報は選手村に集まりますので、たとえば翌日のスタート時間が急に変更になったなどの情報を選手村に駐在するスタッフがいち早くキャッチして選手らに伝えることが必要になるのです。

— オリンピックの出場枠は男女それぞれ60人。顔ぶれもメジャーとはかなり異なることが予想されます。

山中 男子のメジャーを例に挙げれば全英オープンや全米オープン、全米プロは出場枠が156人で世界ランキング上位者はほぼすべてプレーします。これに対してオリンピックは出場枠が60人と少ない上に、1カ国で最大4人～2人という制限がありますから、

世界ランキング上位であっても出場できない選手がたくさんいます。韓国の女子などは世界ランキング15位以内でも出場できるかどうか分からないほどです。一方で出場国は男女とも30数カ国になる予定ですから、選手層の薄い国なら世界ランキング300位台や400位台でも出場できる。メジャーとはかなり違うフィールドになることは間違いありません。

— メジャーよりもトッププレーヤーが少ないからメダルのチャンスが広がると考えることができるのではないのでしょうか。

山中 そういうとらえ方もできると思います。ただ、どこの国の選手も同じですが、オリンピックは初体験ですから感じるプレッシャーや周囲の雰囲気は未知数。その中でどれだけのことができるかは予想しづらいと思います。

— メジャーと大幅に異なるフィールドにする意味はどこにあるのでしょうか。

山中 IOC（国際オリンピック委員会）にはオリンピックを世界のトップアスリートが競う場にすると同時にひとつでも多くの国に参加してもらいたいという思惑があります。一方であまり競技時間が長くなることは望まれていません。多くの国から参加してもらいたいって出場枠をメジャーと同じ数にすれば朝から夕方遅くまでプレーすることになります。それはIOCにとって歓迎すべきものではないのです。これらの要素を加味して練り上げたのが今回の出場資格なのです。

— 日本は2020年に東京大会を控えていますから、リオ大会で好成績を収めて弾みをつけたいところですね。

山中 以前、IOCのスタッフが来日し、各NFを集めてセミナーを開催したことがありました。あるNFの方が「開催国のNFとしてしなければいけない一番大切なものは何ですか」と質問したところ、IOC側から間髪入れずに「自分の国から1人でも多くのメダリストを出すことです。それがそのオリンピックを成功させるカギになる」という答えが返ってきたのです。質問した方は運営や広報の方法について質問したつもりだったのですが、IOCは「それは我々と組織委員会の仕事。あなた方の仕事はメダリストを出すことです」と言い切っていました。それだけ、開催国の責任は大きいのだと感じました。

〔第31回オリンピック2016年リオ大会〕

大会開催期間	2016年8月5日(金)開幕式～21日(日)閉幕式 《選手村開村》7月24日～ 《男子ゴルフ競技》8月11日～14日(4日間) 《女子ゴルフ競技》8月17日～20日(4日間)
--------	--

〔第32回オリンピック2020年東京大会〕予定

大会開催時期	2020年7月24日(金)～8月9日(日) 《男子ゴルフ競技》7月30日～8月2日(4日間) 《女子ゴルフ競技》8月5日～8月8日(4日間)
--------	--

— 責任を果たすためには強化策を明確にすることも必要ですね。

山中 その通りです。ただ、ゴルフの場合は非常に難しいところがあるのも事実です。

— いろんな団体が存在する構造が一貫した強化を難しくしている。

山中 我々JGAはゴルフのNFであり、次世代のゴルファーを発掘して育成、強化していくという役割があります。ただ、それはそのゴルファーがプロになるまでの話です。今回、オリンピックの対策本部をJGAとプロの団体である日本プロゴルフ協会、日本ゴルフツアー機構、日本女子プロゴルフ協会の4団体で組織しました。このような形を継続しながら将来の金メダリストを育てていくことが絶対に必要です。理想を言えば、そこに高校ゴルフ連盟や大学ゴルフ連盟などさまざまな団体にも加わっていただき、ゴルフ界全体、つまり「オールジャパン」で取り組むことが不可欠です。そうしなければお金も人も分散してしまい、きちんとした強化プログラムがつかれないと思います。

— オリンピック競技に採用されたことで今までにない流れがゴルフ界にできつつあることは確かだと思います。それくらい、オリンピックは魅力的であり、大きな力を持っている。

山中 オリンピック日本代表のヘッドコーチを務める丸山茂樹さんは「ゴルファーとして一番感動したことのひとつが学生時代にアジア大会で金メダルを獲得して君が代が流れる中、日の丸が掲げられた瞬間でした。あの感動は他に経験したことがないもの。ぜひ若い選手たちにもその感動を味わってもらいたい」と言っています。アジア大会とオリンピックでは規模が違うかもしれませんが、国を代表して戦うという意味では同じだと思います。願わくばリオでメダルを手にして丸山さんの言うような感動を味わってもらいたいと思います。そして2020年には東京で金メダル。それが日本のゴルフ界全体の希望でしょう。

— 本日はありがとうございました。

出場選手の選出方法と選手総出場枠

2016年7月11日時点の男女別ゴルフ世界ランキング(以下「ランキング」)で出場選手が選出され、出場選手枠は男女とも各60名まで。

- ①ランキング上位15位迄の選手は、1ヶ国に付き4名まで出場できる。
- ②16位以下は、1ヶ国に付き2名まで出場できる。
(例：15位以内に1名のみのは、16位以下の1名と合わせ2名となる)
- ③大会ホスト国であるブラジルは、最低でも1名の出場枠は保証される。
- ④各々5大陸(アフリカ、アメリカン、アジア、ヨーロッパ、オセアニア)から、最低でも1名の出場枠は保証される。



Image by : Nobuyuki Ogata

リオ大会オリンピックゴルフコース 砂地帯と低木に覆われたエリアがグリーン近くまで侵入。